

事業者名:株式会社兎ッ兎ワイナリー

■本社所在地:鳥取県鳥取市国府町麻生 178-11 ■TEL:0857-30-0003

取組テーマ:ぶどうとワイン造りを通して人がつながり夢と未来を創造する

■事業概要 (自社の技術・製品・サービスなど、主な事業について記載)

- 生食用ぶどう・加工用ぶどうの栽培 ○加工用ぶどうの醸造、ワイン生産
- 自社製造ワインの販売 ○ワインを通じたイベントの企画・運営

■2030年に目指す姿 (現状を起点とした目標設定ではなく、SDGs 実現に向けた自社のあるべき姿を検討し、記載)

当社は「ぶどうとワイン造りを通して人がつながり夢と未来を創造する」の理念の下、農業から商工業、教育福祉を含めた多面的事業を展開し、栽培・加工・販売・人材育成のプロセスを持った六次産業の創出を目指します。

- ① 社会:職員全員がやりがいを持ち、年齢や性別、社会的背景に考慮した働き方の追求。
- ② 経済:グループ企業『医療法人とつとの杜』『一般社団法人ほどきのとつと』と共に国府町を中心とした経済循環・人材育成ができる地域づくり。
- ③ 環境:環境負荷の少ない農業、温室効果ガス削減に向けた取組。

■SDGsの取組のPRポイント

当社は創業以来サステナブルなワイン造りに力を入れています。その最大の理由は「おいしいぶどう、おいしいワインをつくるため」です。品質の高いぶどうとワインを作るためには、恵まれた気候、栽培醸造技術の向上などが必要ですが、最も必要なものは「その土地で長く作り続けること」です。

なぜ、長く作り続けることが必要なのか。その理由は大きく3点あります。

第一に、ぶどうの樹齢です。ぶどうは苗木を植えてから3年ほどで果実が実り始めます。しかし、ワイン用として品質の高いぶどうを実らせるためには15年ほどかかります



■3側面の重点的取組

(重点的に取り組む項目を太字とし、現状と今後の目標・取組を記載)

社会		
認証申請した項目に○印	労働災害の防止	○
	ハラスメントの防止	○
	女性の活躍	○
	障がい者雇用	○
	多様な人材の活躍	○
	多様な働き方の促進	○
	労働者の人権配慮	○
	社会配慮商品・サービス	○
	地産地消	○
	地域社会への貢献	○
+		

従業員それぞれの背景に沿った仕事を実現できるように、定期的な面談等を実施し、心理的安全を確保します。

また、麻生地区を中心とした地域の需要創出と活性化のため「yogoto マルシェ」の開催の他、地域おこし協力隊を受け入れ、行政との連携をより強固にします。



第二に、ワインの熟成です。ワインは樽や瓶で熟成することで香りが複雑になり、味わいが深まります。とくに良質なぶどうで醸造したワインは熟成のポテンシャルが高く、5年ほど経つと瓶詰め時とはまったく異なるワインになります。



第三に、知識・経験の積み重ねです。ぶどう栽培やワイン醸造は何年もの積み重ねで多くの技術が集積されています。そのため、鳥取の気候に適したワイン用ぶどうの栽培・ワイン醸造は、その土地で長く続けてこそ理解できるものです。



以上の観点から、ワイナリー経営は持続可能でなければならないと考えています。

我々の美味しいワインを造り続けるための活動が、地域や環境に良い影響を与え、その土地で持続するワイナリー経営を実現するよう取り組んでいきます。



経済

人材育成に積極的に取り組み、全ての従業員が自己実現を目指せるように心のケアと各種制度を確立し支援をしていきます。(例、外部研修への参加、教育機関への出張)

英語対応のワイナリーツアーや殿ダム熟成ワインを貯蔵している殿ダム地下回廊見学等を実施するなどツーリズム事業を拡大します。また、地域資源である殿ダムの地下回廊で熟成したワインを高付加価値で販売することで収益増加を目指します。



認証申請した項目に○印	BCP策定	
	セキュリティ対策	○
	法令遵守の取組徹底	○
	情報公開	○
	後継者の確保	○
	市場変化への対応	○
	経営資源活用	○
	デジタル化・生産性向上	○
	雇用の維持・拡大	○
	人材育成・能力開発	○
	+	

環境

気候変動による原料ぶどうの収量減少・品質低下に対応するため、環境適応性と高い酒質を持ったオリジナルぶどう品種の開発とその栽培・醸造に取り組みます。



醸造に用いたブドウの皮や種を廃棄物として処理するのではなく、乾燥させることで堆肥化し、次シーズン以降のブドウ栽培に活用しています。



認証申請した項目に○印	自社の気候変動リスク	○
	社会変化の気候変動リスク	○
	自社による環境への影響	○
	燃料消費量の削減	○
	電力消費量の削減	○
	再生可能エネルギー	○
	廃棄物の削減	○
	水資源の適正な管理	○
	環境配慮型商品・サービス	○
	環境面での社会貢献	○
	+	

■トレードオフの分析

(上記重点的取組を推進した際に、トレードオフ(代償)としてどのような負の影響が生じるか、またそのことにどう対処していくか分析を記載)

創エネルギーなど規模の大きい取り組みについて、2点課題があります。

第一に、一つの事業者では取り組むことができないことです。発電設備設置など、多数の事業者や行政が関わらなければ実施できないことがあるため、様々な事業者と意見交換を積極的に行います。

第二に、費用が大きくなることです。規模の大きい事業に取り組むほど必要経費が多くなってしまいます。費用の問題を解決するために、補助金などを活用したいと考えています。

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組	
社会5	多様な人材の活躍		※女性、障がい者以外の取組を記載、採用活動の記載は不要		○				
社会5			[KPI] 中途採用比率	✓		83%	80%程度を維持する	従業員が少ない会社なので、新卒・中途問わず様々な可能性を考慮して採用をする	
社会5			[KPI] 離職率または離職者数			0人	農林水産省によると農業法人における3年以内の離職率は45.7%であるため、それ以下を目指す	就職時のミスマッチを防ぐために、研修期間等を設ける	
社会5			[KPI] 外国籍の社員数			0人	状況に応じて雇用を考える	情報収集に努める	
社会5			[KPI] 65歳以上の社員数	✓		1人	定年退職者などの活躍の場を検討する	パート雇用、農業指導など様々な形を検討	
社会5			多様な人材の活躍に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている (※本項目では、女性、障がい者以外の人材を対象)	✓		代表を中心に社員とともに関係期間から教育を受けている		DEIについての周知 【1年目】 ・多様な人材の活躍のための課題の洗い出し 【2年目】 ・各社員に応じたキャリア支援をより充実させる 【3年目】 ・2年目を基にキャリア支援の改善を行う	
社会5		多様な人材（属性、キャリア・経験など）の活躍について、会社の方針を表明している (※本項目では、女性、障がい者以外の人材を対象)	✓		代表・社員による定期的な社員教育				
社会5		経営層は、多様な人材との対話や、課題の把握・解決を実践している	✓		グループ企業と連携し、対話や課題の把握、それに対し弊社が取り組みたい事業を計画している				
社会5		同一労働同一賃金に基づく待遇格差解消に取り組んでいる	✓		各社員の労働内容や将来性等を根拠に待遇格差が起きないように配慮している				
社会5		非正規労働者の正規への転換など、非正規労働者の処遇改善を推進している	✓		労働者の希望に則した処遇を提供している				
社会5		高齢者の特性に応じた仕事内容の工夫や施設整備・設備導入を行っている	✓		できること・できないこと・やりたいことを明確にするための面談とその環境整備				
社会5		外国人労働者の受け入れに関する体制づくりを行っている							
社会5		その他（※法令の規定への対応は対象外）	✓		鳥取市からの地域おこし協力隊設置依頼を受託				
社会6	多様な働き方の促進				○				
社会6			[KPI] ひと月あたりの労働者の平均残業時間	✓		1時間	繁忙期を除き残業をしない		残業時間を減らすための仕事分担をする
社会6			[KPI] 年次有給休暇の取得率	✓		100%	変わらず100%取得を目指す	経営層から従業員に対して呼びかけを継続する	
社会6			多様な働き方に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		代表を中心に関連機関から教育を受けている		一人一人の意思や考え方を尊重し、経営活動に反映する 【1年目】 ・従業員へのヒアリングを通して多様な働き方を実現するための意見をまとめる 【2年目】 ・ヒアリングを基に労働環境改善の実施 【3年目】 ・PDCAサイクルを基に計画の見直し	
社会6		健康経営を経営方針として位置付けている	✓		社員の生活・健康を重視し、休み方等の提案を受ける				
社会6		管理職の人事評価に、部下の残業時間や有給休暇取得状況を関連付けている			人事評価制度不採用である				
社会6		上記以外の休暇を取得しやすい独自の仕組みを設けている	✓		急遽休みが必要になった場合でも申請できるように対応				
社会6		フレックスタイムや在宅勤務、短時間勤務など柔軟な働き方に関する制度を設けている	✓		それぞれの生活に合わせた働き方の提案と受入を実践している				
社会6		従業員の副業を認めている	✓		従業員から提案を受ければ新たな事業として計画する				
社会6		従業員へのヒアリングなどにより、課題等の実態把握を行っている	✓		随時、従業員の相談を受け付け、働き方の改善を行う				
社会6		その他（※法令の規定への対応は対象外）							
社会7	労働者への人権配慮				○				
社会7			[ビジネスと人権]に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		経営層が研修を受講している			人権方針（人権ポリシー）の作成 【1年目】 ・従業員へのヒアリングを通して人権配慮の現状と課題を抽出する 【2年目】 ・課題に即した対応の実施と専門家への相談 【3年目】 ・PDCAサイクルを基に、対応の改善を行う
社会7			人権方針（人権ポリシー）を作成・公開している						
社会7			管理的地位にある従業員に対して、意識啓発や研修を行っている	✓		管理職の従業員を中心に教育を行っている			
社会7			雇用契約書の締結、または、労働条件通知書を交付している	✓		通知書等を代表と個人が面談形式で確認している			
社会7			人権関連トラブルについて、従業員や取引先向けアンケートや相談窓口設置を行っている	✓		社員を窓口に入権問題の相談を受け付けている			
社会7			取引先において強制労働、児童労働が排除されていることを確認している	✓		商談時に確認をしている			
社会7			その他（※法令の規定への対応は対象外）						
社会8	社会配慮型商品・サービスの提供		※環境に関する内容は環境9に記載		○				
社会8			少数派や社会的弱者に配慮した商品・サービスの開発・提供を行っている	✓		当社従業員が「孤立支援サポーター」として行政と連携して活動している		多くの社会課題がある中で、とくにワイナリーとして解決にアプローチできる課題を見つけ、改善していく 【1年目】 ・耕作放棄地の農地化を進める 【2年目】 ・耕作放棄地を利用した農作物の収入化 【3年目】 ・空き家の再利用	
社会8			上記以外に社会課題解決型の商品・サービスの開発・提供を行っている	✓		国府町における空き家・耕作放棄地の利活用			
社会8			商品・サービスの開発・提供にあたり、利用者の安全性に配慮している	✓		消費者に不安のある商品があれば回収し、原因究明と状況説明を行う（ワイン中の酒石酸・人体に害はないなど）			
社会8			利用者からの意見・要望を取り入れるための窓口を設けている	✓		常にワイナリーへの連絡をオープンにしている			
社会9	地産地消				○				
社会9			[KPI] 県内事業者からの調達率	✓		ワイン（瓶・コルクを除く）に伴う原料100%	変わらず原料生産を自社で続ける	原料の安定供給を目指し、ワイン用ブドウ栽培技術の向上を目指す	
社会9			地域産業の発展や地域の事業者との共存共栄を経営方針に位置付けている	✓		地域とともにワインを造ることがワイナリー経営には必要不可欠である		地域と共にワインを造るために、地域資源の保護と付加価値の創造に努める 【1年目】 ・原料の安定供給を目指す 【2年目】 ・ 【3年目】 ・県内での取扱店を3年で15%増やす	
社会9			パートナーシップ構築宣言を行っている	✓		行っている			
社会9			地元事業者から、積極的・優先的に仕入れている	✓		できる限り仕入れている			
社会9			地域資源・地元産品を活用した商品・サービスを開発・提供している	✓		原料用ブドウは国府町・八頭町産のみ			
社会9			「食バラダイス鳥取県」アンバサダーに登録している	✓		認定済み			
社会9			その他	✓		地元飲食店との取引、市内レンタルスペースでの販売			
社会10	地域社会への貢献		※ビジネスとしての活動は社会8、環境に関するものは環境10に記載		○				
社会10			地元自治会との交流イベント主催、防災訓練への参加など、地域活性化の取組を行っている	✓		自治会との連携や水路清掃等への参加、マルシェの開催		地域にあるワイナリーとして、できることを今後も見つけ、多くの活動に取り組む 【1年目】 ・地域の寺社仏閣等の資源の管理、保全 【2年目】 ・就労支援事業の援助 【3年目】 ・上麻生地域だけではなく、麻生地域、国府町全域へと貢献範囲を広げる	
社会10			地域の学校における社会教育活動に協力している	✓		保育園、小学生、中学生、高校生、大学生の職業体験の受入			
社会10			地域の自治体や学校、福祉団体等への寄附や寄贈を行っている	✓		寄附及び地域清掃、堤防管理などの労働力を提供			
社会10			災害時等に、地域住民に対して物資や避難場所の提供等を行っている又は同様の取組に係る地域防災協定を締結している	✓		避難場所かつ認定された災害用の井戸水を常設			
社会10			「あいサポート企業」登録など、障がいの有無に関わらず尊重しあう社会づくりに参画している	✓		未登録ながら、積極的に取り組んでいる			
社会10			通勤、出張時の公共交通機関利用を促進するなど、地域交通機関の維持に貢献している	✓		できる限り出張時は公共交通機関を使う			
社会10			その他	✓		地域資源の有効活用として、戦ダムの監査庫を利用したワイン熟成計画を実施			
社会+			※社会1~10に該当しない項目について記載（該当するものは対象外）		-				

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組		
経済1	事業継続計画（BCP）の策定		※自社自身の取組を記載（他者の支援は社会8または10で記載）		-					
経済2	セキュリティ対策				○					
経済2			セキュリティについて、専門機関の診断・指導を受けている	✓		警備会社・エンジニアとの連携をしている	ワイナリー・事務所・ネットワークは引き続き警備会社・専門家と連携していく。	【1年目】 ・社員ネットワーキングの向上 【2年目】 ・園場、ワイナリー施設の監視体制検討 【3年目】 ・監視体制の改善		
経済2		取引先や運送・清掃業者など、建物に出入りする者のセキュリティ上のルールを整備している	✓		ワイナリーに来た人は必ずスタッフに会う必要がある					
経済2		個人情報や機密情報の入手、利用、保管、提供、消去等の取扱ルールを設けている	✓		情報管理のために規則があり、社内教育を実施している					
経済2		情報セキュリティに関する管理者や専門部署を設置している	✓		社員を責任者に擁立し管理体系を用意している					
経済2		経営層や従業員に対して、専門家によるセキュリティ研修を行っている	✓		定期的な社内教育と社外エンジニアの指導					
経済2		ウイルス対策ソフトの導入やOS等の定期的な更新している	✓		エンジニアと共同でソフト等の更新を行う					
経済2		重要な情報については、アクセス制限を行っている	✓		重要事項は自社PC以外からはアクセスできない					
経済2		ISMS認証やPマークなどを取得している								
経済2		その他、具体的なセキュリティ対策を実施している								
経済3	法令順守の取組の徹底（必須）				○					
経済3			コンプライアンスに関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		法律順守に関して代表と社員に専門家から教育を受ける	法令順守は酒類製造において最も大切なことなので、引き続き社内全員で徹底していきたい	【1年目】 ・社内教育に関するカリキュラムの設定 【2年目】 ・カリキュラムの検討と実施 【3年目】 ・カリキュラムの改善		
経済3		経営トップが、法令順守することについて、社内外にメッセージを発信している	✓		代表による定期的な社内教育					
経済3		自社事業に関わる法令を把握・社内共有し、遵守している	✓		酒税法をはじめとする酒類製造に関わる法律を遵守している					
経済3		コンプライアンス委員会の設置など、チェック体制を設けている								
経済3		公益通報制度（内部通報制度）を整備している								
経済3		コンプライアンスマニュアルなどの社内規定の作成し、社内に周知している	✓		定期的な社内教育の実施					
経済3		従業員に対するコンプライアンス研修を実施している	✓		定期的な社内教育の実施					
経済3		その他（※法令の規定への対応は対象外）								
経済4	情報公開				○					
経済4			地域住民に影響を及ぼす可能性のある事業活動について、関係自治体や地域住民への情報提供など、適切なコミュニケーションを行っている	✓		マルシェの開催など、周辺交通に影響のある場合は地域住民、自治体に了承を得ている	発売済みの製造について多くの過程をオープンにしたい、トレーサビリティを実現していきたい	【1年目】 ・HPの改編 【2年目】 ・情報開示の課題検討 【3年目】 ・企業活動に関する情報の開示		
経済4			就職を希望する者に対して、人事労務や就労実態等に関する情報提供を行っている	✓		必要時に開示、提供している。				
経済4			情報提供にあたっては、多様な利用者や利用環境（アクセシビリティ）に配慮した情報提供を行っている	✓		SNS、HPだけではなく紙媒体の資料も用意し、必要であれば電話対応も随時受け付けている				
経済4			消費者や取引先からの情報開示の問い合わせに対する対応方針を策定し、適切に対応している	✓		製造工程をデータと紙で保管し、商品に関する情報は問い合わせがあれば開示できる状態になっている				
経済4			消費者や取引先に影響のある情報漏洩や品質問題などの公表基準を設け、適切に運用している	✓		一定の基準を持って製造し、データとして保存している				
経済4			会社としての公式ホームページやSNSを有し、定期的に情報発信している	✓		HP、SNSを運用しており、検索からアクセスできる				
経済4			その他（※法令の規定への対応は対象外）							
経済5	後継者の確保				○					
経済5			<代表者が60歳以上の場合>円滑に事業承継を進めるため、相談機関や専門家等に相談するなど具体的な取組を行っている	✓		60でなくても5年後の事業承継を目指し、準備を進めている	事業承継完了	【1年目】 ・承継内容の選定 【2年目】 ・承継に関する人選 【3年目】 ・製造活動における承継		
経済5			適性のある後継者候補を選定している	✓		適性のある従業員を数名選抜し、後継者として事業計画に参画させている				
経済5			会社の資産や月次の資金繰り、株式の保有状況、経営者保証の状況など、経営状況・経営課題等を後継者候補が把握している	✓		代表と管理者で週に1回、事業計画について共有を進めている				
経済5			代表者一人に依存しない、経営体制を構築している	✓		候補者が予算設定など積極的に経営に参画している				
経済5			事故や病気がなく、経営者の有事の時の対応方針を役員や従業員と共有している	✓		候補者を中心に対応体制を構築した				
経済5			その他							
経済5										
経済6	市場変化を見据えた対応				○					
経済6			自社事業に影響を及ぼし得る、顧客のライフスタイル、価値観の変化を把握し、分析している	✓		アルコール市場が縮小する中、新たな提案と価値を提供するためにコンサルタント等と市場分析をしている	変化に対応できる人材の育成	【1年目】 ・経営における分析の開始 【2年目】 ・生産・製造に関する分析の開始		
経済6			今後見込まれる法令改正や規制緩和がもたらす自社事業への影響を把握し、分析している	✓		酒税法や酒造や環境問題などに関する法律に遵守し、考えられる変化に対し早めに研修を受ける（炭素税など）				
経済6			上記変化を踏まえた自社の商品・サービス、事業領域の見直しを行っている	✓		定期的な経営マネジメント会議にて常に議論している				
経済7	自社以外の経営資源活用				○					
経済7			大学や試験研究機関などの有する専門性を活用している	✓		大学、県産業技術センターと連携している	栽培・醸造に関する連携を強化し、品質向上の成果を出す	【1年目】 ・山陰テロワールムーブメントの実施 【2年目】 ・新たな関係機関との連携 【3年目】 ・成果発表		
経済7			技術・ノウハウ、知的財産等に関する他社との連携・オープンイノベーションに取り組んでいる	✓		山陰地方のワイナリーを中心とする勉強会の企画（当社呼称：山陰テロワールムーブメント）				
経済7			副業・兼業などの外部専門人材や、土業等の専門家の知見を活用している	✓		副業人材による経営コンサルティングを受けている				
経済7			自社の中核事業と非中核事業を見極め、戦略的に外部委託を行っている							
経済7			投資ファンドなどの外部資金を獲得している							
経済7			関係企業、業界団体のネットワークに参加し、情報収集や情報交換を行っている	✓		実施している				
経済7			その他							
経済8	デジタル化による生産性向上				○					
経済8			[KPI] 労働生産性（付加価値額÷従業員数）	✓		2,979,229円/人	300万円/人を目指す	一人一人の作業効率化を目指す		
経済8			専門家から助言・指導を受けながら、経営層が主体となってデジタル化・DXを進めている	✓		社内情報を共有するためのシステムを構築	栽培や醸造などデジタル化が進んでいない事業に關しても可能な限りデジタル化を目指す	【1年目】 ・経営に関する情報の中で、課題を調査し、デジタル化を進める 【2年目】 ・醸造に関するデジタル化を進める 【3年目】 ・栽培におけるデジタル化を進める		
経済8			デジタル化・DXに関する計画や方針を策定している	✓		経営層を中心に新たな取り組みや方針を共有している				
経済8			デジタル化を推進する専用の部署や人材など、体制づくりを行っている	✓		従業員を中心に対策チームを組織				
経済8			営業・仕入れ・販売、開発・製造管理など、個別業務のデジタル化を行っている	✓		アプリ、Excel等を用いた業務のデジタル化推進				
経済8			業務間のデータを連携し全社的なデジタル化による業務変革・DXを進めている	✓		社内SNS、社内ネットワークを通じたデータ共有				
経済8			顧客・取引先との接点業務など各種業務におけるデジタル技術の活用状況を分析し、運用改善を行っている	✓		システムの共有による取引先との連携、運用実施				
経済8			新たな価値や顧客創出に向け、AI、ビッグデータ等を活用している	✓		AIを用いて生産性向上に努めている				
経済8			その他							
経済9	雇用の維持・拡大				○					
経済9		★	[KPI] 従業員数	✓		6人	現状の雇用の維持とともに、状況に応じて雇用を考える	現状の雇用の維持とともに、状況に応じて雇用を考える		
経済9			採用後にミスマッチが起きないよう、インターンシップや内定後のフォローアップなどを行っている	✓		入社前と採用後に企業説明、見学、実務体験を実施	就労支援・セカンドキャリアデザインを考慮し、多種多様な人材を事業内容に沿って配置する	【1年目】 ・セカンドキャリア人材の支援 【2年目】 ・新規採用を見据えたミスマッチ改善等の実施 【3年目】 ・新規採用の実施		
経済9			会社の成長・発展に向けた事業転換や経営の多角化、設備投資を行っている	✓		実施している				
経済9			新規出店や商圏拡大、M&Aなどの事業拡大に取り組んでいる	✓		東京アンテナショップの制度を活かし、ワインの消費が最も多い東京での顧客獲得をする				
経済9			事業転換や多角化、商圏拡大などの方針を踏まえた人材のスキル転換、処遇改善、採用活動を行っている	✓		各社員のスキル、やりたいことに合わせて事業展開に取り組む				
経済9			人材確保のため、物価上昇率なども勘案し、賃上げ（ベースアップ）を行っている	✓		多くの社員が前年の5～10%給料が増加				
経済9			離職防止、ES向上に向けた取組を行っている	✓		正社員からパートまで各スタッフと面談を行い、処遇等の改善を検討している				
経済9			その他							

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
経済10	人材育成・能力開発				○			
経済10			経営層関与の下、従業員の能力向上に向け、一定の予算を確保し、人材育成に取り組む方針を示している	✓		資格所得など人材育成のために研修費等を用意する	それぞれの社員が自身の取り組みたいことと経営活動を照らしあわせ、必要に応じた資格取得・研修などを支援できる仕組みを作る	【1年目】 ・各社員のキャリアデザインを作成する 【2年目】 ・キャリアデザイン実施に向けた活動 【3年目】 ・活動の改善、デザインの変更など
経済10		業務に必要なスキルマップを作成・更新している	✓		各従業員の担当とどのような技術が求められるかを、定期面談等で各社員のスキル等を把握し、今後の研修などを計画する			
経済10		従業員のスキルを定期的に把握し、能力開発計画を策定・更新している	✓		醸造や栽培について、外部講師のもとに研修に行く			
経済10		外部研修への参加やeラーニングの活用を奨励し、積極的に受講させている	✓		栽培や醸造、販売管理について可能な部分をマニュアル作成し、誰がしても同じようになるように社員同士で指導する			
経済10		OJTの質の向上に向けた業務内容のマニュアル化やマニュアルの見直し、トレーナー教育を行っている	✓		生産加工販売において、全ての社員が各業務に関わっている			
経済10		ジョブローテーションにより、計画的に従業員のスキルアップ・多能工化を図っている	✓		資格所得、能力向上などを前提に面談において給与を検討する			
経済10		能力の向上を人事評価や処遇に反映させる仕組みを設けている	✓		ワイン産業に関わる資格取得の費用補助			
経済10		従業員の資格取得を推奨し、要する費用を支援している	✓		その他			
経済+		※経済1～10に該当しない項目について記載（該当するものは対象外）			-			
環境1	自然環境の変化が経営にもたらす影響		【気候変動リスク・機会の分析・対策①】		○	分析・検討内容を記載		
環境1			リスクを特定している（気候変動による災害リスクの主なもの 急性リスク：洪水、台風、自然火災等/慢性リスク：海面上昇、高温、水不足等）	✓		急性：大雨 台風 慢性：高温 乾燥	農業は気象の影響を強く受けるため、各年に対し確実な答えといえるものは出せないが、前年までの反省と行政・研究機関の予察を通してその都度対策を進めていきたい	○農業 ・栽培品種の選定 ・ブドウ栽培の適正化、改善 適切な農業防除 ○醸造 ・適切な添加物添加 ・冷蔵施設の有効活用 その他状況に応じて専門家の助言などを基に改善していく
環境1		上記リスクの自社への影響を分析している（特定したリスクそれぞれについて記載）	✓		大雨：ブドウ品質の低下、病気の蔓延 台風：水路の氾濫、ブドウ棚の倒壊 高温：ブドウ品質の低下、生育障害、病気の蔓延 乾燥：土壌水分の不足			
環境1		上記リスクについて優先順位（発生頻度×影響の重大性）をつけている	✓		一年を通して影響を受ける高温・温暖化を中心に季節ごとで、優先している			
環境1		上記リスクへの対策を進めている	✓		慢性的なリスクに関しては品種や栽培方法を見直すことで対応する 大雨や台風は圃場の整備等で対処する			
環境1		自然環境の変化による機会について分析している	✓		環境の変化は農業において最も影響を受けるので、季節の変わり目に合わせて、その都度分析対応している また行政などから、台風対策などの指示を受けている			
環境2	社会・制度の変化が経営にもたらす影響		【気候変動リスク・機会の分析・対策②】		○	分析・検討内容を記載		
環境2			リスクを特定している（気候変動による社会・制度に関する4種類のリスク：政策・法規制、技術、市場、評判）	✓		脱炭素を指した農業・醸造 米などの食料システム戦略に則った栽培方針への転換 自然派ワインなど誤解されやすい認識	毎年様々な制度や社会的意義が問われる中で、弊社の企業活動におけるリスクを分析し、その都度対処していきたい	○農業 ・農業の利用について制度が変わりつつあるため、専門家の助言をもらいつつ変化に対応する ○醸造 ・添加物利用について、社会的に求められることがあるため、その都度消費者に納得していただける回答をする その他、常にデータや事実に基づいた客観的で信頼性のある説明を実施
環境2		上記リスクの自社への影響を分析している（特定したリスクそれぞれについて記載）	✓		農業機械の燃料変更 農業や化学肥料、添加物を使用することに伴う偏見や風評被害 設備・機械の高騰			
環境2		上記リスクについて優先順位（発生頻度×影響の重大性）をつけている	✓		ほとんどのものが高騰しており、商品の値上がりにもつながる 電気で動く農業機械が増えてきているので、徐々にシフトを検討			
環境2		上記リスクへの対策を進めている	✓		化学肥料に依存しない栽培体系の確立→有機肥料の使用、ワインに使用したブドウ皮などの堆肥化 農業・添加物の少量化に向けた取り組みと共に、健全なブドウと安全なワインを造るうえで必須であることも丁寧に説明 行政や専門家と連携し、制度変化がワインナー経営に与える影響について検討している。 また必要であればセミナー等に参加する			
環境2		社会・制度の変化による機会について分析している	✓					
環境3	自社の事業活動が引き起こす影響		【環境負荷リスクの分析・対策】		○	分析・検討内容を記載		
環境3			自社の事業活動（原材料・エネルギーの調達、生産、販売、使用、物流等）が環境に与える負荷（CO2や廃棄物、化学物質等の排出、大気汚染や生物多様性、海や森林にどう影響するか）について、分析している	✓		ワインを造るために必要な活動や電力消費がCO2排出に関与している 一方で耕作放棄地をブドウ園場として再活用することで、生物多様性を育むことにもつながっていると考えられる	ワインナー経営活動において、カーボンニュートラル、創エネルギー、資源の再利用などを実践していきたい	専門家・行政への相談、実地での検討 その他情報収集
環境3		自社の製品・サービスが利用され、最終的に廃棄されることで環境に与える負荷について、分析している	✓		瓶は多くの場合再利用される 製造物について、環境に与える負荷は少ないと考えている ブドウ園場転換による農地の活用			
環境3		自社の事業活動が環境負荷の軽減に貢献する機会について分析している	✓					
環境4	燃料消費量の可視化と削減 (Scope1)		【カーボンニュートラル①<省エネ>】		○			
環境4		★	[KPI] Scope1のCO2排出量	✓		0.97t-CO2/kl	現状維持	現状維持
環境4			専門家による省エネ診断を実施し、削減に向けた助言・指導を受けている	✓		ハウス用ビニールの重量を削減した	更なる削減に向け取り組み	【1年目】 ・ダム熟成の経過観察 【2年目】 ・ダム熟成の成果発表 【3年目】 ・ダム熟成の継続 新たな燃料低減に向け、農業機械を電気燃料に変更
環境4		省エネ設備（高効率ボイラ等）の導入・更新を行っている	✓		LED照明の導入、効率的な冷却を実施するためのセラー導入			
環境4		EMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入し、エネルギーの使用状況を可視化やエネルギー運用の効率化を行っている	✓		とっとり市民電力の提携するサービスにより、電力使用量などが可視化されている			
環境4		CO2総排出量削減のため燃料を電気や都市ガスへ切り替えている	✓		石油燃料の購入量（使用量）を記録している			
環境4		燃料消費量低減につながる設備等の運転を行っている	✓		農業機械を順次電気対応に変更中 ダム内監査廊を利用したワイン貯蔵庫利用の開始			
環境4		その他		✓		当社の使用燃料は農業機械用のガソリンと高圧洗浄機用の灯油のみである		
環境5	電力消費量の可視化と削減 (Scope2)		【カーボンニュートラル②<省エネ>】		○			
環境5		★	[KPI] Scope2のCO2排出量	✓		0t-CO2/kl	再生可能エネルギー利用の継続	再生可能エネルギー利用の継続
環境5			専門家による省エネ診断を実施し、削減に向けた助言・指導を受けている	✓			再生可能エネルギーを利用しているが、1kWhあたりのワイン製造量の向上を目指す	【1年目】 ・醸造タンクの効率利用可 【2年目】 ・醸造施設の効率的な冷却 【3年目】 ・その他電力消費の見直し
環境5		省エネ設備（LED照明、高効率空調等）の導入・更新を行っている	✓					
環境5		EMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入し、エネルギーの使用状況を可視化やエネルギー運用の効率化を行っている	✓		2022年に事務所、セラー施設を改修			
環境5		省エネに対応した建物改修を行っている	✓		定期的な社内教育を通して、節電箇所の確認をしている			
環境5		その他		✓				
環境6	再生可能エネルギーの導入		【カーボンニュートラル③<創エネ>】		○			
環境6		★	[KPI] 全使用電力に占める再生電力の割合	✓		100%	100%	引き続き再生エネルギー由来電力を導入し、自社での発電を模索する
環境6			再生設備を設置し、発電した電気や発生した熱を自家消費している（売電など他社へ供給している場合は環境9へ）	✓		各種専門家と水路を利用した発電などを検討中	引き続き専門家と創エネ施設導入に向けて計画	【1年目】 ・再生エネルギー継続に向けて情報収集 【2年目】 ・自社発電装置設置へ向けて情報収集 【3年目】 ・自社発電装置の設置
環境6		グリーン電力証書の活用など、再生エネルギー由来の電力を調達している	✓		とっとり市民電力より調達			
環境6		その他		✓				
環境7	廃棄物の削減		※自社自身の取組を記載（他者を促す内容は環境9で記載）		-			
環境8	水資源の適正な管理		※自社自身の取組を記載（他者を促す内容は環境9で記載）		○			
環境8		★	[KPI] 年間使用量	✓		343000ℓ	ワイン製造量に対する水使用量の低下を目指す	1年目を基準に減少を目指す
環境8			事業別、事業所別の使用量について、インバクトの大きな内訳を把握・分析している	✓		醸造所とそれ以外（事務所）に分け、どの時期にどのような意図で水を使用するか把握している	水使用量を常に把握し、前年と比較して減少するような計画を立てる また、循環利用に向けた設備を検討する	【1年目】 ・前年比減を目指す 【2年目】 ・前年比減を目指す 【3年目】 ・循環利用設備の検討
環境8		水使用量削減についての計画を策定し、具体的な取組を行っている	✓		温水等を用いた効率的な洗浄			
環境8		水質汚濁防止法等に基づき、排水の水質等について、適正な管理・運用を行っている	✓		定期的な浄化槽の清掃			
環境8		工場内等で水を循環利用するための施設を整備している	✓					
環境8		その他（※法令の規定への対応は対象外）		✓				

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
環境9	環境配慮型商品・サービスの提供				○			
環境9			グリーン商品の認定取得している				カーボンフットプリント算定について、より精度の高いものを算定できるようにする	【1年目】 ・新たなCFP算定の検討 【2年目】 ・CFP算定の実施 【3年目】 ・経営活動におけるCFP算定の実施
環境9		製品別カーボンフットプリントを算出し、製品・サービスに表示している	✓		カーボンフットプリントは算定した実績はあるが、信頼できる係数を使うための費用が用意できないので、表示はできていない			
環境9		生分解性など、廃棄時に環境負荷が少ない素材を使った製品を開発・販売している	✓		ワインに使用される瓶は再資源化されることがほとんどである栓にはコルクを採用し、木材由来の資源を利用している			
環境9		再エネ設備を設置し、発電した電気をFIT売電したり、発生した熱を他者に供給している（自家消費している場合は環境6へ）	✓		環境6と同様に、専門家と検討中			
環境9		上記以外の環境課題解決型の商品・サービスの開発・提供を行っている	✓		耕作放棄地を中心とした圃場の整備			
環境10	環境面での社会貢献		※ビジネスとしての活動は環境9に記載		○			
環境10			会社として、道路・海岸や砂丘など、地域の清掃活動を行っている	✓		会社が所在する地域の自治活動に参加し、水路の清掃や神社の整備などを担う	地域に根差したワイナリーとして、地域環境の維持保全に努める	【1年目】 ・地域環境保全のために水路清掃・森林管理などの自治活動を協力する 【2年目】 ・自社原料について何らかの認証を受けることを目指す 【3年目】 ・生物多様性向上について調査し、公表できることを目指す
環境10		調達時には、グリーン商品や森林認証（FSC、SGEC）を受けた商品など、環境に優しい商品を選定している	✓		可能な限り採用している			
環境10		生物多様性の保全のための植樹活動や野生鳥獣保護活動を行っている	✓		ドウ畑を保持することで、里地の生物多様性を守ることができ			
環境10		J-クレジット購入又は共生の森づくりへの参加により、地域の森林保全に貢献している						
環境10		学校や地域に対して、環境教育活動を実施している	✓		ドウ畑を通じた環境教育を学校や地域に対して実施			
環境10		環境保全のための寄附、寄贈等を実施している						
環境10		その他						
環境+			※環境1～10に該当しない項目について記載（該当するものは対象外）		-			